

"合理化は過疎を促進"

太田合化
労連委員長 水俣で問題点を指摘

合化労連の太田憲委員長は二十

四日水俣市を訪れ、チッソが予定している合理化に関連して「合理化による人減らしは過疎を促進させるもので、単なる労使間の問題ではない。水俣病問題は合理化とは無関係である。これを混同すれば合理化はできない」との姿勢で合理化に対処する考えを述べ、さ

らに次のように語った。

一、配転に応じられる人は配転に応じる。どうしても水俣を離れられない家庭の事情がある人は水俣に残してもらいたい。新規事業の労働条件は現状維持とする。チッソは安い電力を生かし雇用力をふやすことがわれわれの基本方針

である。

一、チッソの水利権は安い肥料を供給するために特別に認められたものだが、水利権はもともと広く県、市民のためのものである。水俣に企業が進出しようとしても、現状ではチッソが水利権を握っているので進出できない。こうした面で国、県、市の行政指導を

要望する。

一、チッソに対しては子会社などをどんどん設立するよう要求する。水俣は三十七年に争議があったため、こうした合理化が持ち上がると市民も単なる労使問題としてとらえがちだが、地域全体の問題としてとらえてほしい。

なお太田委員長は二十二日チッソに対する県の行政指導を要望したのに続いて、二十四日には水俣市の浮池市長にも同じように要望した。これに対し浮池市長は「一党一致してチッソに対し新規事業

を起すよう要望したい」と答えた。